

島根県におけるアライグマの生息実態 (Ⅱ)

— 2014~2017年度の生息実態, 錯誤捕獲防止わなの開発, 行動追跡調査およびアライグマ探索犬の導入による効果 —

小宮 将大・菅野 泰弘・澤田 誠吾・金森 弘樹

研究の要旨

アライグマ (*Procyon lotor*) の生息数を低減させるために, 捕獲個体のモニタリング調査, 錯誤捕獲防止わなの開発, GPS発信機による行動追跡およびアライグマ探索犬の訓練と評価を行った。モニタリングの結果, 捕獲個体の半数以上が0歳であって, 妊娠率は2歳以上で82%に達した。また, 胃内容物からは, サワガニ, ヤゴ, ブドウ, トウモロコシやカキが多く検出された。錯誤捕獲防止わなについてはその構造を開発したものの, アライグマ自体の捕獲効率 (CPUE) が低かったため改良の必要があった。行動追跡調査の結果, メスの1.61~3.54km²に比べて, オスは14.39~18.84km²と広い行動圏を示した。また, 昼間は森林帯や空き家で休息して, 夜間は畑や果樹園, 水域を利用していた。アライグマ探索犬の導入区の捕獲効率は, 非導入区と比較して同程度であった。このように, アライグマは農作物に依存しつつ, 森林から水辺に生息する小型動物類を採食していた。

関連図表

表3 供試個体の利用環境

個体	針葉樹	広葉樹	水域	水田	畑・果樹園	市街地
M01	○	○	○●	●		
M02	●			○	○●	○●
F01		○●	●			
F02	●	○				
F03		●		○		○●

表4 探索犬導入区と非導入区の捕獲試験結果

区分	わな設置日数	捕獲数 (頭)	CPUE (頭/100日・台)
導入区	387	6	1.55
非導入区	426	6	1.41

注: Manly の解析によって, 活動期 (夜間) に有意な選好性を認めた環境を●, 休息期 (昼間) に有意な選好性を認めた環境を○で示した。

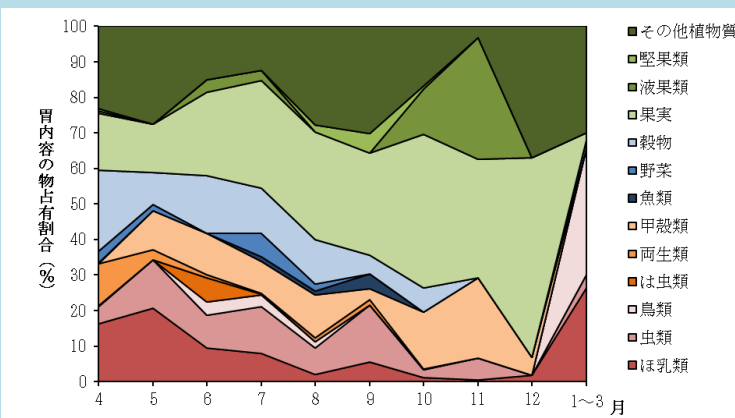


図6 月別の胃内容物の出現品目

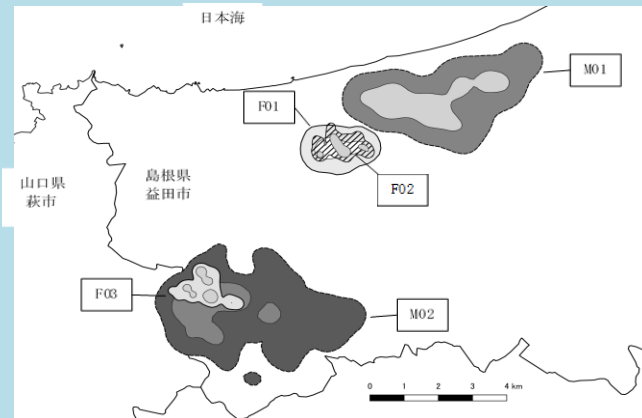


図7 GPS発信機を装着した5頭の行動圏 (50%、95%固定カーネル法)

語句説明 **GPS発信器**: 野生動物の行動を把握するため, 人工衛星を利用した位置情報が記録, 発信できる装置を備えた機器。
CPUE: わなであれば10 (または100) 基1日あたり, 銃猟であれば1人1日あたり, 対象鳥獣を何頭捕獲したのかを示した数字で, 生息動向 (増減) を図る指標の一つ。
95%固定カーネル法: 野生動物の行動圏について, 調査データから全体の分布状況を, カーネル法によって推定したもので, 95%はその信頼区間を示す数字。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上米島1207

担当科 : 鳥獣対策科
 問い合わせ先 : 0854(76)3818
 E-mail : chusankan@pref.shimane.lg.jp